

敦賀発電所の近況について

2026年2月9日

日本原子力発電株式会社

本資料には、日本原子力発電株式会社またはその他の企業の秘密情報を含んでおります。当社の許可なく本資料の複製物を作成すること、本資料の内容を本来の目的以外に使用すること、または第三者に開示、公開する等の行為を禁止します。
日本原子力発電株式会社

本日のご説明内容

敦賀発電所の近況について

- (1) 敦賀発電所の概要について
- (2) 敦賀発電所1号機の廃止措置状況について
- (3) 敦賀発電所2号機の運営状況について

(1)敦賀発電所の概要について

○敦賀発電所1号機【定格電気出力:35.7万kW】



設 備 概 要
型式:沸騰水型(BWR)
燃料:低濃縮ウラン(約52ton)
濃縮度 3.7wt%
販売先:関西、中部、北陸

1970年 3月	営業運転開始 日本初の商業用軽水炉 大阪で開催された万国博覧会に送電
2015年 4月	営業運転終了
2017年 5月	廃止措置着手

○敦賀発電所2号機【定格電気出力:116万kW】



設 備 概 要
型式:加圧水型(PWR)
燃料:低濃縮ウラン(約89ton)
濃縮度 4.1wt%
販売先:関西、中部、北陸

1987年 2月	営業運転開始 日本初の110kW級 国産改良標準型軽水炉
2011年 5月	原子炉手動停止
2015年11月	新規制基準に係る原子炉設置変更許可申請(2023年8月 補正申請)
2024年11月	設置変更許可申請を許可しないことを決定
2025年 9月	設置変更許可申請に向けた追加調査開始

○敦賀発電所3、4号機【定格電気出力:153.8万kW × 2基】



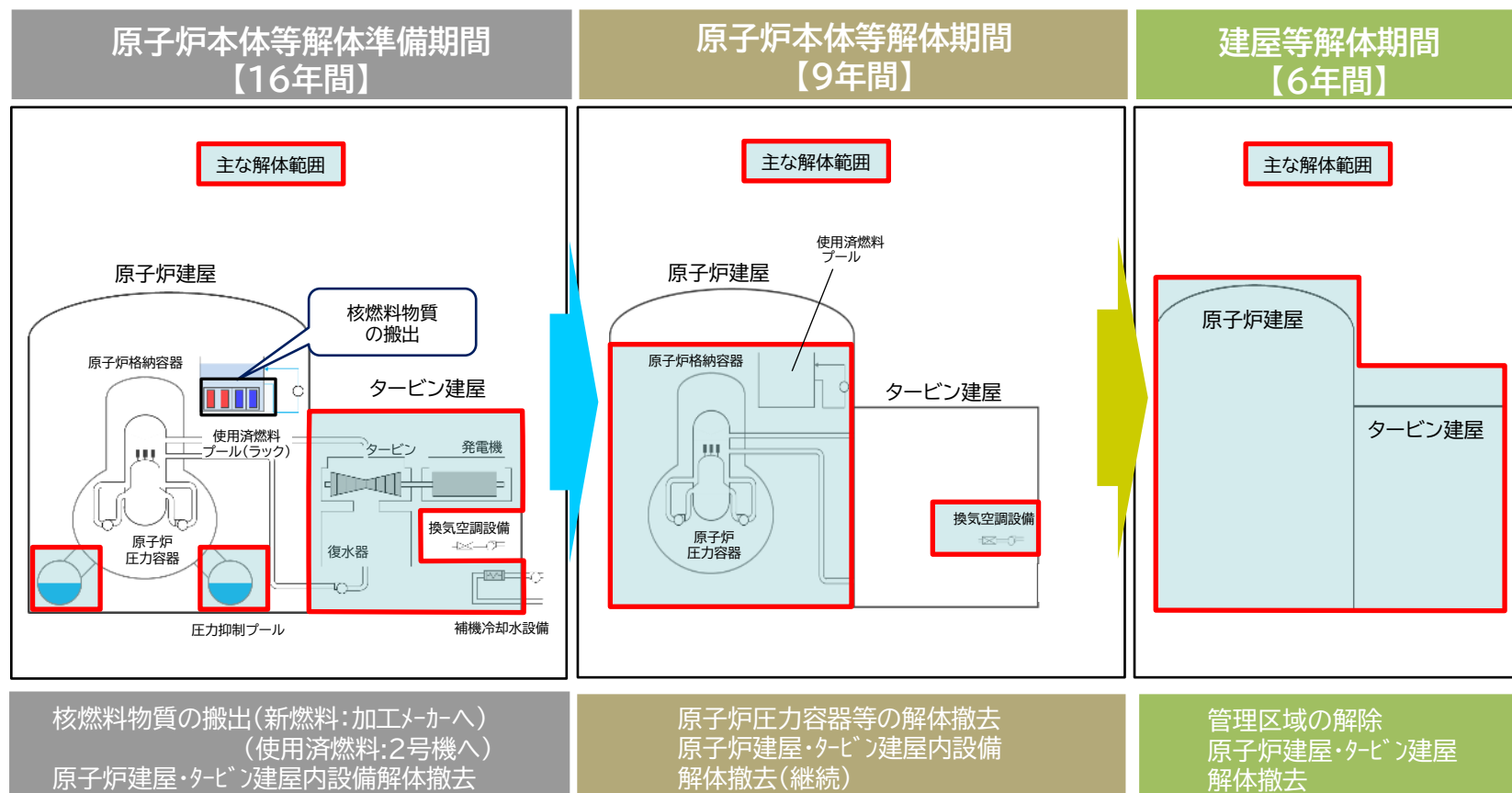
設 備 概 要
型式:改良型PWR(APWR)
販売先:関西、中部、北陸
(予定)

2004年 3月	原子炉設置変更許可申請 日本初の改良型PWR
2004年 7月	建設準備工事開始
2010年 3月	建設予定地敷地造成終了

(2) 敦賀発電所1号機の廃止措置状況について(廃止措置計画の概要)

敦賀発電所1号機の廃止措置工程は、3段階に分け31年をかけて行い、放射能レベルの低い領域から解体を開始します。特に放射能レベルの高い原子炉本体等の領域は、放射能が時間と共に弱くなる性質を利用し、放射能レベルが下がってから解体を行います。

具体的には、原子炉建屋内から燃料を搬出後、原子炉本体の解体を行い、その後建屋を解体し更地にします。

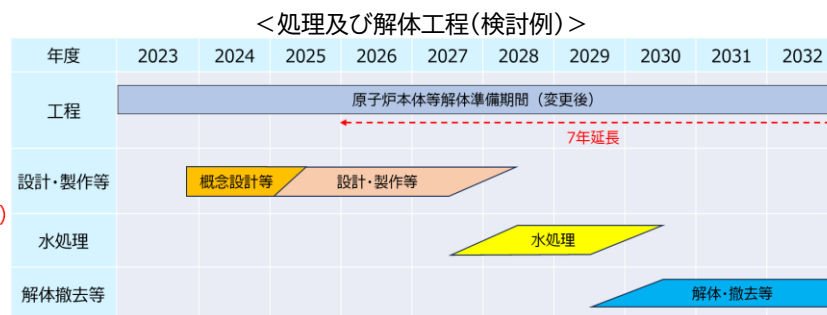
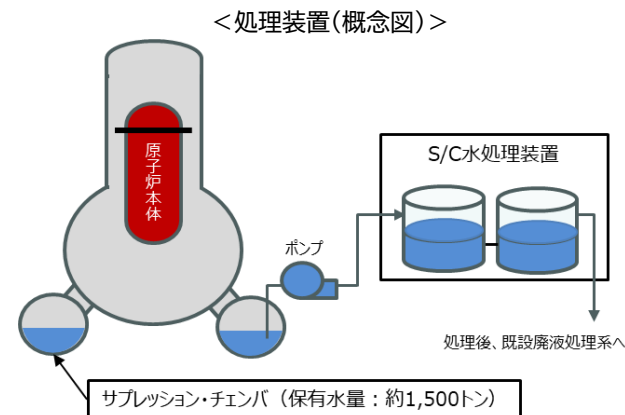
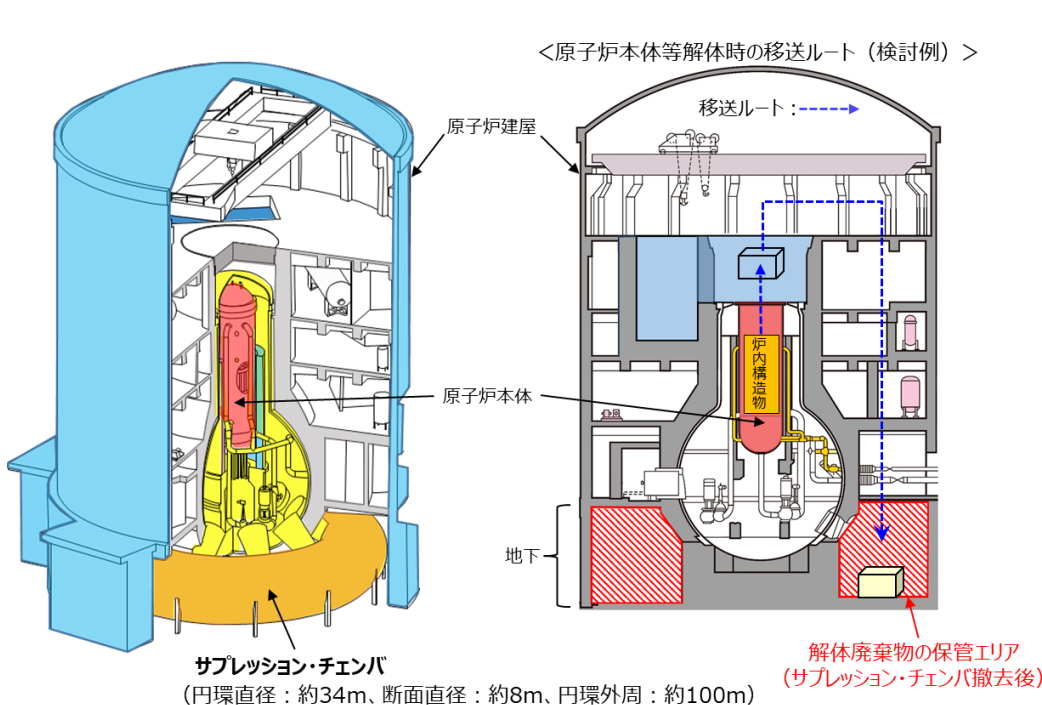


(2) 敦賀発電所1号機の廃止措置状況について(廃止措置計画の変更)

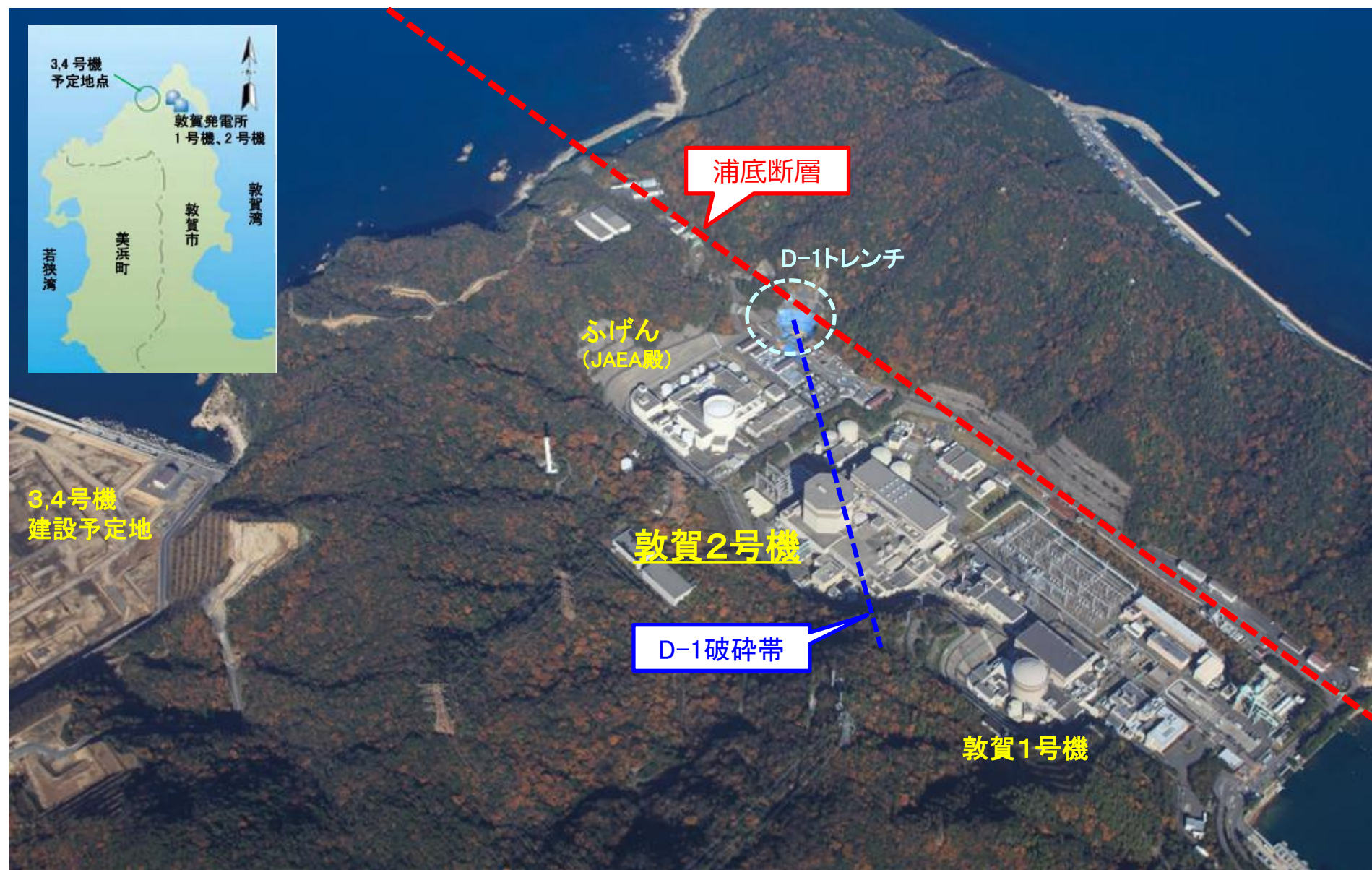
現在、原子炉本体等解体に干渉する施設の解体を行っています。

2026年度から原子炉本体等の解体を予定していましたが、解体廃棄物を保管する予定のエリアにあるサプレッション・チェンバの解体に、7年程度を要することから、原子炉本体等の解体着手を2033年度に延期することとしました。

このため、2025年5月19日、1号機の廃止措置完了時期を2040年度から2047年度に変更(7年延期)することとし、廃止措置計画の変更届を原子力規制委員会に提出しました。



(3) 敦賀発電所2号機の運営状況について(敦賀発電所の敷地内破砕帯の位置)

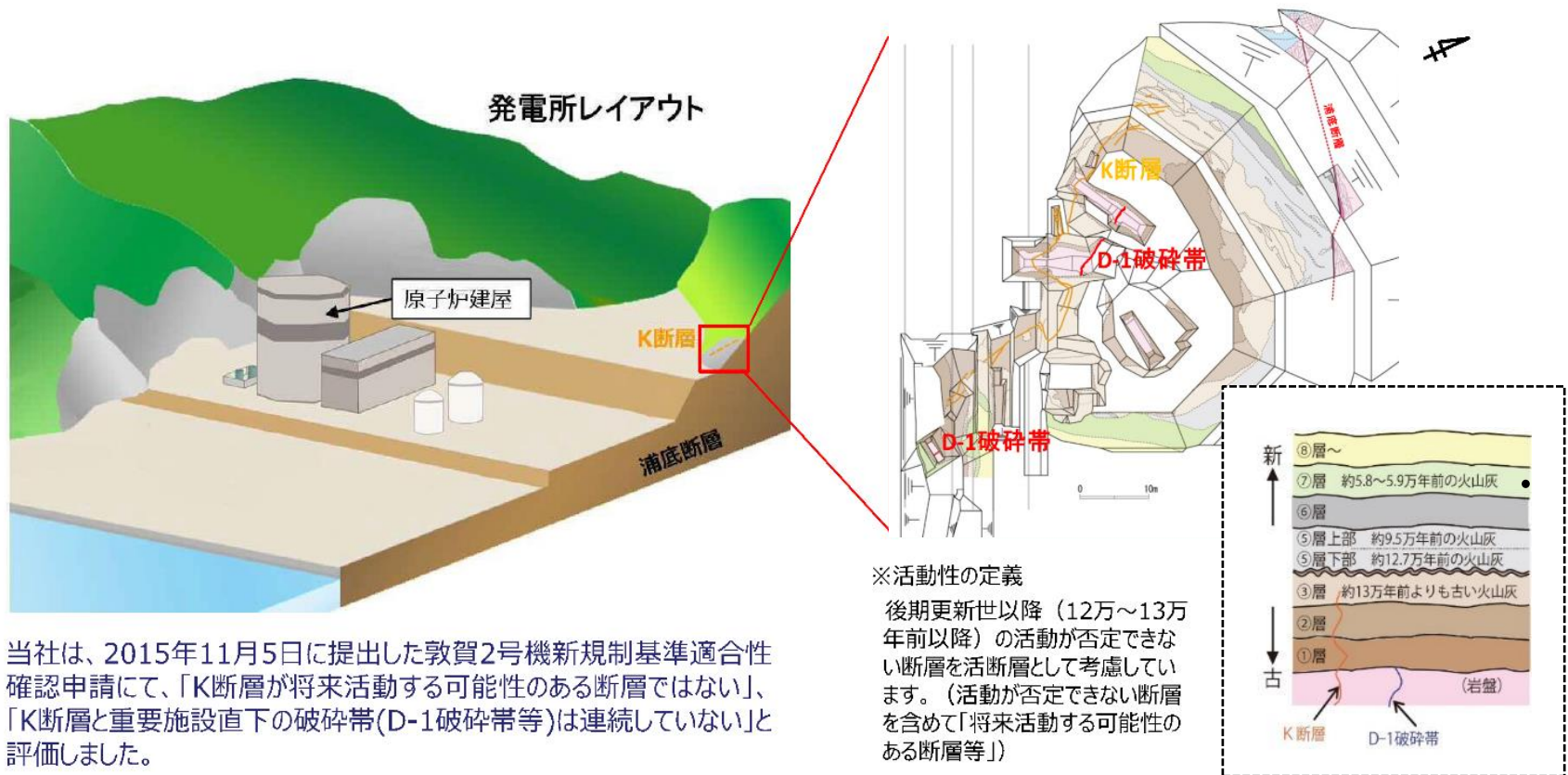


(3) 敦賀発電所2号機の運営状況について(安全審査対応の状況について)

【原子力規制庁の確認結果等】

- ・**K断層の活動性評価**について、③層の堆積年代が後期更新世以降である可能性が否定しきれていないこと等から、**活動性を否定する地点として妥当とはいえない**。
- ・**K断層の連続性評価**について、事業者が設定した敷地の破砕帯の連続性評価基準では、地質観察による調査結果の精度や信頼性を考慮した**安全側の判断が行われているとはいえない**。

⇒ **2024年11月13日 原子力規制委員会にて許可をしないことを決定**



当社は、2015年11月5日に提出した敦賀2号機新規規制基準適合性確認申請にて、「K断層が将来活動する可能性のある断層ではない」、「K断層と重要施設直下の破砕帯(D-1破砕帯等)は連続していない」と評価しました。

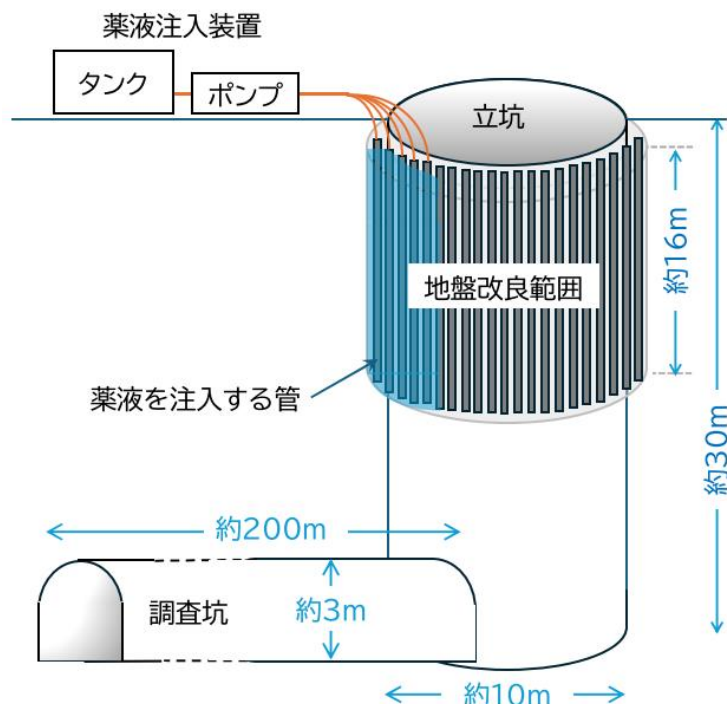
(3) 敦賀発電所2号機の運営状況について(追加調査計画の概要)

現在、現地における追加調査を行っています。
引き続き、安全確保を最優先に調査を進めてまいります。

項目		調査目的	調査位置・概要		実施状況
1	K断層の分布と性状	K断層の岩盤及び深部での分布や性状を確認し、その特徴を詳細に把握	(1)	K断層が屈曲している箇所における岩盤までの掘削や、D-1トレンチの地下深部までのボーリング調査を行う。	現地調査中
2	K断層の活動性	K断層の活動年代を特定するための地質データを更に拡充	(2)	<ul style="list-style-type: none"> D-1トレンチの北西法面のボーリング等による地質の詳細調査を行う。 ふげん道路ピットの上載層から採取したブロックの内部構造をCTで確認する。 	現地調査中
3	K断層の連続性	K断層の連続性の有無を、従来のボーリングデータによる評価に加え、岩盤面において直接確認	(3-1)	ふげん道路ピットを岩盤まで掘削し、K断層が南方に連続していないことを直接確認する。	現地調査中
			(3-2)	ふげん道路ピットから敦賀発電所2号機原子炉建屋側への延長部において、調査坑によるK断層の追跡調査を行う。	(3-1)の調査後に対応
4	その他の破碎帯等	K断層が重要施設の直下まで連続していないことを確認するとともに、敷地全体の破碎帯等の地質データを取得	(4)	原子炉建屋周辺の地質、破碎帯の性状、原子炉建屋直下の破碎帯の活動性、その他の破碎帯の分布、活動性等について、ボーリング調査、調査坑による調査を行う。	現地調査中

(3) 敦賀発電所2号機の運営状況について(追加調査計画の実施状況)

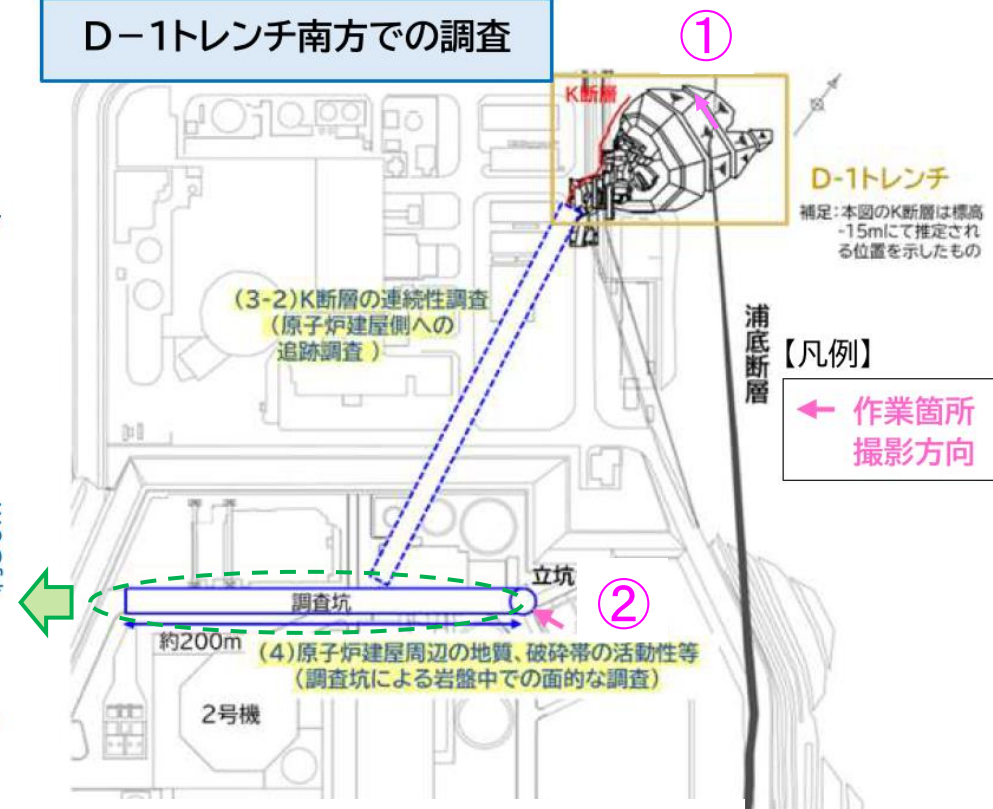
地盤改良イメージ図



①D-1トレンチ北西法面でのボーリング



D-1トレンチ南方での調査



②調査坑(立坑)周辺の地盤改良作業



薬液注入作業全景



薬液注入部拡大